

30年3月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 3月1日～ 30年3月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		30/3月	4月	5月
伐採動向	スギ	0.0	0.0	10.0
	ヒノキ	0.0	△ 16.7	0.0
	カラマツ	25.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	△ 16.7	△ 16.7	0.0
出荷・販売動向	スギ	0.0	0.0	10.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 33.3
	エゾ・トド	△ 16.7	16.7	△ 33.3
手持立木在庫動向	スギ	△ 8.3	16.7	0.0
	ヒノキ	0.0	12.5	△ 25.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	△ 33.3	0.0	△ 16.7

・スギの伐採動向は3月、4月の横ばいから5月は増加に。ヒノキは3月の横ばいから4月は減少、5月は再び横ばいに。カラマツは3月の増加から4月、5月は横ばいに。エゾ・トドは3月、4月の減少から5月は横ばいに。

・スギの出荷・販売動向は3月、4月の横ばいから5月は増加に。ヒノキは3カ月連続横ばい推移。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは3月の減少から4月は増加、5月は再び減少に。

・スギの手持立木在庫動向は3月の減少から4月は増加、5月は横ばいに。ヒノキは3月の横ばいから4月は増加、5月は減少に。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは3月の減少から4月は横ばい、5月は再び減少に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林のトドマツ間伐を実行中。冬期に大雪がなかったことから作業は順調に進んでいる。伐採動向はやや増加する見込み（北海道）。
- ・国有林の立木販売物件を実行中。3月15日を目途に入林不可となっているために途中中断の予定（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに積極的に伐採（東北）。
- ・国有林の立木販売物件の主伐を実施中（東北）。
- ・スギ、ヒノキ、カラマツとも伐採はなし（中部）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実施。カラマツはなし（中国）。
- ・スギ、ヒノキの間伐を中心に伐採（中国）。

(出材・販売動向)

- ・工場は流通材が足りない状況なので、運材車（トラック）の手配ができると販売できる。ただ、当地は融雪期に林道が閉鎖されるので、販売は翌月と翌々月にやや減少の見通しで、出材はやや増加する（北海道）。
- ・運材を外注しているが、道東地区の車両数が極めて不足しているので、予定数量を販売できない可能性あり（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに玉不足の傾向。強気の販売（東北）。
- ・出材調整はしていない（東北）。
- ・出材・販売もしていない（中部）。

(手持ち立木在庫)

- ・順調に伐採してきているので、手持ち立木在庫動向はやや減少で推移していく見通し（北海道）。
- ・伐採、販売分だけ在庫減少の予定（北海道）。
- ・伐採量増加に伴い手持ち立木在庫はやや減少（東北）。
- ・手持ち立木在庫なし（中部）。